

いちご収穫体験を楽しんだ第2回の授業

6月12日の授業

時間割	教科と内容	教室
1 時限	りんごの摘果作業	西本果樹園
2	ぶどう畑の見学	砥山ふれあい果樹園
3	野菜の定植作業	
4	じゃがいも観察	八剣山果樹園
5	いちご収穫体験	桜井農園

朝のホームルームでは今日一日の授業について説明の後に、野菜と果物の違いという興味深い話がありました。一般的に店ではイチゴやメロン、スイカ等は果物として並べられているが、これらは年に一度しか収穫できない草の仲間、農家にとっては「野菜」に分類されること。一方、木に実って何年も続けて収穫できるリンゴ、サクランボやナシなどは「果物」として区別されていることが理解できました。



さらに、おいしいリンゴができるまで、枝切りに始まり収穫までの10項目の作業工程の概要が説明され、私たちが何気なく食べている果物も農家の人々の大変な働きの結果であることが分かりました。

一方、農業小学校5年目となる北原美空さん（小6）は、冬休みの自由研究で制作した壁新聞を展示してくれました。



【壁新聞と北原美空さん】

模造紙3枚に及ぶ大作で、写真、資料やスケッチ等が効果的に使われています。「まとめるのが大変でした。でも楽しかったです。学校の授業

でこれまでで特に印象に残っているのは、ツリークライミング、果物収穫、ハローインカボチャ作りです」と話していました。

【りんごの摘果作業】

作業に先立って、摘果の目的やどの実を摘み取るかの説明がありました。

ひと固まりになって実を結んだばかりのりんごは、中心果または元気



【りんご摘果説明】

そうな実を残してすべて摘み取ってしまうこと。摘み取る際には残す実や枝を傷めないように注意することなどが実演を交えて話されました。また、害虫防除には化学農薬を避けフェロモン剤（交信攪乱剤）で対応してきたことなどに理解を深め、作業を行いました。

【ぶどう畑の見学】

昨年10月末の降雪によって全壊したぶどう棚もきれいに再建されましたが、たくさんの実を結んでいた大きなぶ



【ぶどうの若木】

うの木は数本を残して取り除かれ、改めて被害の大きさを知りました。しかし、棚の支柱部分に植えられた数十センチの若木が葉を出し将来への希望を伝えているようです。

【野菜の定植作業】

今回の野菜は、ナス、ピーマン、食用ホーヅキ、トマト、カボチャ等で約100本を植えることになっています。今回指導を担当していただいた細貝さんの手によって畝（うね）にマルチが張られた畑が待っていました。等間隔に定植するための穴が開けられ、水をやりながらそこに苗を傷めないように注意しながら入れていきました。丁寧に土をかけておしいです。8月～10月にかけて収穫することができますが、その間成長する野菜を観察することができます。

【じゃがいも観察】

午後からは八剣山果樹園に移動し、じゃがいも観察をしました。5月15日に植え付けた「北あかり」と「男爵いも」は、茎と葉を10数センチも伸ばし、生徒の間に感嘆の声が上がり自分たちが植え成長したじゃがいもに見入っていました。収穫は第4回（8月21日）を予定しています。



【成長した北あかり】

【いちごの収穫体験】

いちごの収穫は、桜井農園で行われました。まず農園主の桜井信一さんから、種から植えられたいちごは「成長点培養→原種（アミ室）→親苗→定植→収穫」という過程がありやっと5年目で収穫できるという説明がありました。今回収穫できるのは「けんたろう」という種類で、今季初めて開放するというハウスが提供され、幼児の握りこぶしほどもある真っ赤に実った甘い大粒のいちごを参加者の皆さんは本当に堪能しました。



【収穫されたいちご】

6月12日のスナップ



【摘果前のりんご】



【摘果作業1】



【摘果作業2】



【摘果作業3】



【準備された野菜の苗】



【ボランティアによる準備作業】



【定植作業1】



【定植作業2】



【桜井信一さんによるいちごの管理説明】



【収穫体験1】



【収穫体験2】



【ぶどう畑の見学】

【第3回（7月10日）の授業計画】

時間割	教科と内容	教室
1 時限	さくらんぼ収穫体験	碓氷ふれあい果樹園
2	碓氷の自然観察・体験	
3	高山植物・山野草見学体験	湯沢園芸

発行：碓氷農業クラブ事務局（代表 瀬戸修一）

〒061-2275 札幌市南区碓氷 84 番地 ☎・Fax 011-596-2694

E-mail toyamafureai@gol.com

<http://www.hakkenzan.com/nosyo/>